

# 歩行換算距離を用いた施設配置と住み替えによる地域生活継続可能性の検討

—地形条件と高齢化を勘案した地域施設配置モデル その2—

日本建築学会計画系論文集/ No. 625/ pp. 611-618/ 2008 年 3 月

正会員 佐藤 栄治 君

高齢者の移動に着目した代謝的換算距離の開発に関する一連の研究の一つであり、これまでの代謝的換算距離の開発に関する研究成果を具体的に適用し、施設配置と住み替えによる地域生活継続の可能性の検討を試みた研究である。

これまで用いられていた単純な移動距離に対して、代謝性を考慮した換算距離という新たな指標を開発・導入している点が特に興味深い。地域生活継続可能性の検討という計画的側面であれば、ニュータウンにおける施設等の再配置論への展開は、これからのコンパクトシティの計画も含めて一石を投じていると評価できよう。

このように、高齢化社会の中でいかにコンパクトなまちづくりを進めるかについて、議論の一端を担う意味でも意義ある研究であり、今後のまちづくりに向けて萌芽性があり、発展が期待できる研究である。